

沖縄の優位性や潜在力を生かした  
新たな産業の創出  
～イノベーションによる豊かな沖縄の実現～

沖縄県商工労働部  
令和3年7月

# 3-(6)-ア 沖縄県スタートアップ・エコシステムの構築

## 目指す姿

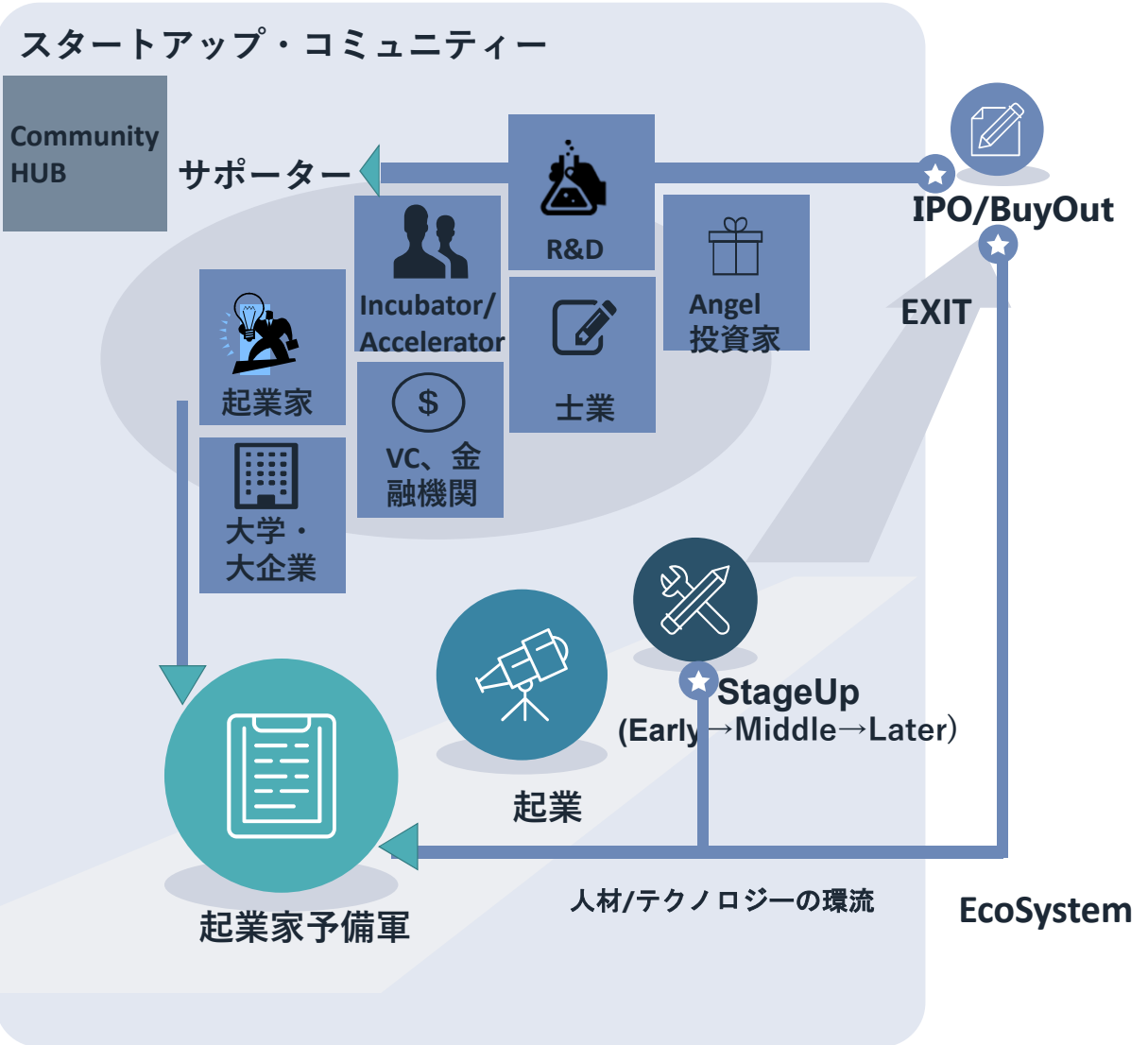
- ①起業家やスタートアップが連続的に生み出され 経済が活性化している。
- ②スタートアップにより本県の社会的・経済的な課題が解決され、持続的発展が促進

## 成果指標 (案)

スタートアップのIPO/BuyOut件数  
スタートアップ創出数

## 施策展開/施策(概要)

- ①起業家の育成
  - ・起業家マインドを有する人材を継続的に輩出・育成する仕組みの構築に取り組む。
- ②創業・成長の支援体制の構築
  - ・スタートアップ企業の創業、短期間での成長を促す支援体制の強化に取り組む。
- ③スタートアップ等と大手企業・金融機関・研究機関・大学等との連携促進
  - ・起業家等と出資等の相手となる企業、投資家等との連携促進に取り組む。
- ④金融関連産業の集積促進
  - ・スタートアップ支援と特別地区制度の活用



# 3-(6)-ア 沖縄県スタートアップ・エコシステムの構築

## これまでの取組

## 課題

## 今後の方向性（案）

### ① 起業家の育成

- ◆ イノベーション創出人材育成事業  
・ 大学生を対象にアントレプレナーシップの育成のための講座を実施した。
  - ・ ビジネストライアルラボを拠点とした起業を目指す学生・社会人へのサポートを実施
- ※H31年度講座参加人数：1,020名  
(学生：712名、社会人：308名)

- ◆ コミュニティ機能が弱く、起業家が積極的に参加する仕組みが弱い。
- ◆ 起業家予備軍の育成が主体となり、起業家の育成が不十分。
- ◆ 社会課題解決のために「技術」を志向できていない。

- ◆ 起業家の育成支援  
・ 起業家育成プログラムの強化  
(大学、コミュニティ等)
- ◆ グローバルアクセラレーターの招致  
・ トップアクセラレーターと連携したアクセラレーションプログラムを実施

### ② 創業・成長の支援体制の構築

- ◆ 沖縄型オープンイノベーション創出促進事業  
・ ITを活用するビジネスプランの実現化に向けて必要最小限のプロトタイプを作成し、トライアルを通じた初期顧客の獲得や市場等の反応を踏まえたプロトタイプの改良等の活動に補助を行う。
- ◆ 新産業事業化促進事業、新産業研究開発支援事業  
・ バイオ、IT、環境の分野において、事業化に向けた研究開発補助を行う。  
(対象分野はアーリーからミドル)

- ◆ 「技術（シーズ）型」が少なく、「ビジネスモデル志向型」が多いため、持続的に成長する企業が少ない。
- ◆ 一時的な「補助金型」の成長支援が多く、資本投入型の支援に結びつく仕組みが弱い。
- ◆ 県外・海外からのスタートアップ誘致については、沖縄のブランド(ResorTechなど)がまだ浸透しておらず、強みを活かしてきれていない。

- ◆ 技術開発型スタートアップの資金調達等促進  
・ 研究開発の成果について、ファンディングとのつなぎを強化 等
- ◆ 技術開発型スタートアップへの支援  
・ 技術シーズの実証支援
- ◆ 成長段階に合わせた支援の実施  
・ ビジネスモデルの検証等
- ◆ 世界への情報発信の強化  
・ 起業家、テック系人材、投資家の招致

### ③ スタートアップ等と大手企業・金融機関・研究機関・大学等との連携促進

- ◆ 沖縄ITイノベーション戦略センターの設置  
・ 沖縄県の情報通信関連産業をはじめとした産業全体の振興を図る拠点として整備
- ◆ 産業振興公社等による支援プログラムの実施  
・ スタートアップから中小企業向けの補助金やハンズオン支援等を実施

- ◆ 支援機関は多数あるものの機能的連携が弱い。「コミュニティHUB」機能がない。
- ◆ 「コミュニティ発IPO企業」等がまだいないため、民間サイドでコミュニティを牽引する機能が弱い。
- ◆ 「コミュニティ発IPO企業」等から人材が環流する仕組みがない。

- ◆ スタートアップ等の創出に向けた「コミュニティHUB」の形成  
・ 民間サポーターの募集・登録  
・ 経営支援等人材面のサポート体制  
・ アクセラレーションプログラムの実施